

平成 27 年 4 月 27 日

報道関係者各位

公益社団法人マナーキッズ®プロジェクト

品川区立小学校・中学校におけるマナーキッズ教室の展開について

公益社団法人マナーキッズ®プロジェクト（理事長：田中日出男）は、品川区教育委員会と協働して、平成 27 年度については、8 小学校、1 中学校計 9 小中学校、約 1,400 名を対象に「市民科」の授業として、下記の通りマナーキッズショートテニス教室を開催することに致します。

日本の教育現場の実態は、子どもの自主性という言葉に任せ、確実にこれからの社会を「生き抜く力」を身に付けるまでに至っておりません。その原因の一つとして、我が国の道徳に関する教育方針は、「命を大切にしよう」「思いやりを大事にしよう」等の物語の話を子ども達に読ませる等観念的であり、抽象論的である。体験を通して正しい姿勢、挨拶等を指導していないため、親、先生、子どもが正しい姿勢、挨拶の仕方を知らないこと。先生、児童・生徒間、親子が友達関係のため躰ができないことにあると考えております。

公益社団法人マナーキッズプロジェクトと品川区教育委員会との協働（コラボレーション）により、子供の規範意識や社会的マナーの面で成果をあげていきたいと考えております。

品川区立浜川小学校より、「規律正しい児童は学力も大きく向上する 「マナーキッズ」を「市民科授業」に取り入れて」という事例報告がされております。

行政の予算化は、品川区に続いて、墨田区、岡山県倉敷市、福岡県北九州市、北海道恵庭市、当別町、高知県香南市他に広がっております。

皆様方のご支援をお願い申し上げます。

記

マナーキッズショートテニス教室開催の日時・場所

学校名	開催日	時間	対象・人数
鈴ヶ森中学校	平成 27 年 4 月 18 日（土）	10：30～12：10	7 年生 80 名
京陽小学校	平成 27 年 5 月 12 日（火）	10：30～15：10	1 年生 64 名、2 年生 71 名
	平成 27 年 5 月 26 日（火）	10：30～15：10	3 年生 72 名、4 年生 58 名
	平成 27 年 6 月 2 日（火）	10：30～15：10	5 年生 43 名、6 年生 56 名
清水台小学校	平成 27 年 5 月 29 日（金）	10：30～15：10	全校児童 78 名
戸越小学校	平成 27 年 6 月 9 日（火）	10：30～15：10	3 年 71 名、4 年 60 名
浜川小学校	平成 27 年 6 月 11 日（木）	10：30～15：10	3 年生 61 名、4 年生 62 名

伊藤学園	平成 27 年 6 月 12 日 (金)	10 : 30 ~ 15 : 10	1 年生 80 名、3 年生 97 名
第三日野小学校	平成 27 年 10 月 7 日 (水)	10 : 30 ~ 12 : 10	4 年生 96 名
品川学園	平成 27 年 10 月 19 日(月)	10 : 30 ~ 15 : 10	3 年生 125 名、4 年生 135 名
立会小学校	平成 27 年 12 月 14 日(月)	10 : 30 ~ 15 : 10	2 年生 100 名

問い合わせ先

公益社団法人マナーキッズプロジェクト 理事長 田中日出男

電話 03 - 3339 - 6535 F A X 03-6426-1580

URL <http://www.mannerkids.or.jp/>

E mail office365@mannerkids.or.jp

< 補足説明 >

1 品川区教育委員会と公益社団法人マナーキッズプロジェクトのコラボレーションの趣旨とコラボレーションに至った経緯について

品川区では、足掛け4年にわたる準備期間を経て、平成18年4月より、全ての小中学校で小中一貫教育をスタートさせました。また、将来にわたり教養豊かで品格のある人間形成を目指し、児童・生徒一人一人が自らの在り方や生き方を自覚し、生きる道筋を見付けながら自らの人生観を構築する基礎となる資質を育て、能力を身に付けさせる「市民科」を創設しました。

最近の子ども達の傾向をみると、将来についての夢をもてないだけでなく、規範意識や社会的マナー、公共心が低下しているとする指摘が極めて多くあります。このような状況の原因を突き詰めて考えてみますと、教師も含めて私たち大人の問題が浮かび上がってきます。学校は目の前の子どもの姿を正しく捉え、「望ましい生き方」の自覚や、「自分自身の生きる道筋を発見するための教養」の習得など、社会との関係における「我」を捉えさせてきたであろうかとの思いがあります。このような考え方から、品川区では、「市民」を広く社会の形成者という意味で捉え、社会の一員としての役割を遂行できる資質・能力とともに、確固たる自分を持ち、自らも社会的に有意な存在（社会の中の個）として意識しながら生きていける「市民性」を育てる学習を小中一貫教育において創設しました。

「市民科」は、従来の道徳、特別活動、総合的な学習の時間を統合したもので、児童・生徒に自己のゆるぎない信念と理想をもたせるとともに、社会の一員として義務と責任を果たし、常に自己改革を図りながら、自らの生き方に意味付けを行うことのできる資質・能力を身に付けさせることをねらいとしております。

「市民科」では、義務教育9年間を通して市民性を身につけられるよう、5領域15能力を設定してカリキュラムを構造化しております。その5領域とは、自己管理領域、人間関係形成領域、自治的活動領域、文化創造領域、将来設計領域です。これらの領域は相互に関連の深いものですが、指導する内容がきちんと身につくように数時間のまとまりのある単元構成で行えるようにしております。単元のねらいに応じて、例えばコミュニケーション力などの社会的スキルの形成を重視します。人間関係形成や自治的活動、文化創造など市民性の基礎・基本は実際の活動を通して身につけることを重視します。さらに将来に向けて必要な社会的な知見の獲得を重視します。

また、それらが、子どもの成長とともに身についた力として高まっていくように、義務教育9年間を、1・2年生、3・4年生、5・6・7年生、8・9年生に分けと発達性を考慮してカリキュラムを構成しております。

一方、公益社団法人マナーキッズプロジェクトは、スポーツや文化活動を通じ、日本の伝統的な礼法を体験し、<体・徳・知>バランスのよい子供を育てることを目的にしております。

プログラムは、子どもの体力・運動能力の低下に歯止めをかける〈体育〉、挨拶・礼儀作法の基本的マナーとスポーツマンシップを習得させる〈徳育〉、運動で知性を育む〈知育〉を考慮して組まれており、既に実施した全国各地の幼稚園・小学校他から高い評価を得ています。34 都道府県 310 小学校他において体育、道徳、特別活動、総合学習他の時間を活用して、授業として採用されております。前身の財団法人日本テニス協会マナーキッズテニスプロジェクトを通算して、47 都道府県において約 125,000 人を超える幼稚園園児、小学校児童が参加しております。

マナーキッズプロジェクトは、スポーツや文化活動と日本の伝統的な礼法（小笠原流礼法鈴木万亀子総師範協力）とのコラボレーションに特徴があり、筑波大学大学院人間総合科学研究科 大森 肇教授より、「マナーキッズテニス教室は、子供の感情を改善する」との中間報告が行われております。

実践を通して挨拶・礼儀作法の基本的マナーを体得することを主眼においており、「マナーとルールは“人間力”の第一歩」と言われるように、市民性の基礎・基本を身につける役割の一翼を担うものと考えております。また、「三つ子の魂、百まで」と言われるように、幼少期から中学校まで一貫して日本の伝統的な礼法を体験できることは、「市民科」を補完するものとして非常に意義深いと考えております。

- 2 予算金額について
約 65 万円である。

以上